

# 行書の基本を学ぼう

## 【第二回】点画の方向や形の変化

千葉大学教授 樋口咲子

皐月さつき  
（五月）



### 1. 楷書かいしよと行書ぎょうしよの筆脈ひつみやく

今月は、行書を書くときの「筆脈」と「筆圧」に注目して、なぜ行書は速く書くことができるのかを考えていきます。また、行書の特徴である「点画の方向や形の変化」について理解を深めます。

文字を書いている間は、筆記具の先が紙面から離れたときも、筆記具はずっと動いています。この一連の動きを筆脈といいます。筆順にしたがって合理的な筆脈で運筆しなければ、字形は整いません。手本を見て、形だけ真似るのは駄目で、運筆が大切だといわれるのはこのためです。



合理的な動きをしているね。



むだな動きが多いね。

さて、楷書と行書（二パターン）の縦書きの筆脈を観察してみよう。行書の方が近回りをする分、速く書くことができますね。

【楷書】

【行書】



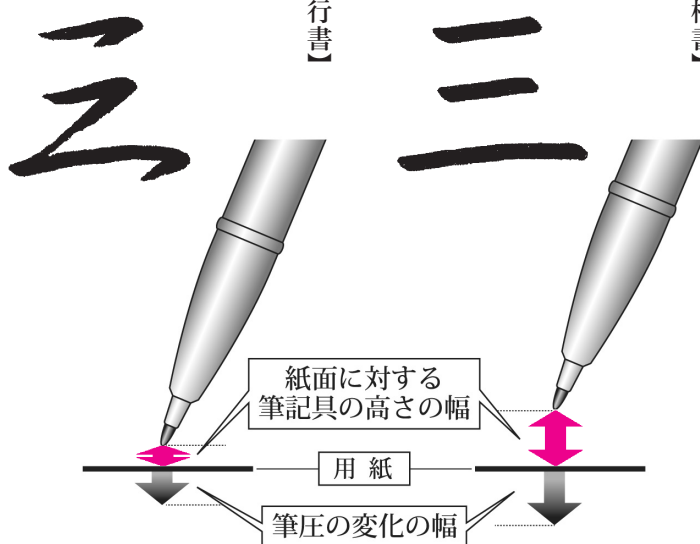
### 2. 楷書と行書の筆圧

行書は楷書に比べ、一字を書いている間の筆圧の変化が少なくてすみます。また、全体的に筆圧も弱く、なめらかに運筆します。したがって、速

く書くことができます。さらに行書は、筆脈が実線となって現れるほど紙面近くで運筆するため、楷書に比べて筆記具の上下運動が少なくてすみます。このことも、速く書くことができる要因の一つです。「三」を書いて確かめてみましょう。

【楷書】

【行書】



紙面に対する筆記具の高さの幅

用紙

筆圧の変化の幅

### 3. 点画の方向や形の変化を確かめよう。

書き方を理解できたら、印刷文字で示した漢字を、マス目の中に行書で書いてみよう。



月 月 用

□

左はらい  
 ↓  
 ↓  
 軽く止める。筆脈が出る場合もある。

大 大 木

□

右はらい  
 ↓  
 ↓  
 長い点のように書く。

大 大 木

□

右はらい  
 ↓  
 ↓  
 はらいきらずに軽く止める。

行 行 予

□

はねの方向  
 ↓  
 ↓  
 はねの方向が変わる場合がある。

未 未 来

□

たて画の終筆  
 ↓  
 ↓  
 たて画の終筆を大きくはねる場合がある。

比 比 北

□

左はらい  
 ↓  
 ↓  
 左はらいを横面にする場合がある。

人 人 用

□

左はらい  
 ↓  
 ↓  
 そり方が反対になる場合がある。

四 四 西

□

部分の形の变化  
 儿 ↓ 丿  
 儿を丿の形に書く場合がある。

保 保 榮

□

部分の形の变化  
 木 ↓ 丩  
 木を丩の形に書く場合がある。

小 小 示

□

短い左はらい  
 ↓  
 ↓  
 短い左はらいを点にする場合がある。

年 年 黒

□

点の方向  
 ↓  
 ↓  
 点の方向が変わる場合がある。



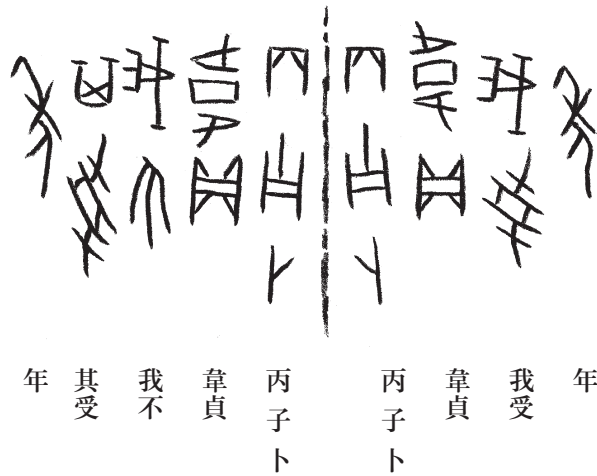
|   |  |   |  |   |  |                                   |  |
|---|--|---|--|---|--|-----------------------------------|--|
| 月 |  | 大 |  | 大 |  | 2. 点画の方向や形の変化<br>基礎力アップ<br>小筆と鉛筆で |  |
| 月 |  | 大 |  | 大 |  |                                   |  |
| 用 |  | 木 |  | 木 |  |                                   |  |
| 行 |  | 未 |  | 比 |  | 人                                 |  |
| 行 |  | 未 |  | 比 |  | 人                                 |  |
| 予 |  | 来 |  | 北 |  | 用                                 |  |
| 四 |  | 保 |  | 小 |  | 年                                 |  |
| 四 |  | 保 |  | 小 |  | 年                                 |  |
| 西 |  | 栄 |  | 示 |  | 黒                                 |  |

★小筆や鉛筆でなぞってから空欄に書きます。

## 文字文化への理解 2

### 甲骨文字と漢字の字源

甲骨文字は、中国語を表記するための漢字の最も古い形です。そして文章は、基礎的な漢文の知識があれば読むことができます。甲骨文字で書かれた次の文章を読んでみましょう（筆者模写）。



右側が肯定文、左側が否定文で対の文になっています。この文章の場合、中央から左右にそれぞれ読み進めていきます。右側は、「丙子卜して韋貞ふ。我年を受くるか。」と読み、左側は、「丙子卜して韋貞ふ。我其れ年を受けざるか。」と読

みます。意味は、「丙子の日に甲骨占卜をして（王家直属の、占いを専門に行う貞人の）韋が占った。我々は（今年）豊作の恵みを受けるであろうか。それとも受けられないであろうか。」です。

殷王朝では、王が占いを通じて神と交信し、政治を行っていました。文字は、その結果を記録する神聖なものでした。文字の書き方を注意して見ると、「卜」「韋」のように、文字の左右が反転しているものがありますね。甲骨文では、文字の反転はたびたび見られます。しかし、「左」「右」と

「右」の文字が反転することはありません。反転すると、意味がまったく逆になってしまうからでしょう。文型では、「干支」卜して「貞人名」貞ふ。」が当時よく用いられていた定型文です。干支は、十干と十二支を組み合わせたもので、ここでは日にちを表します。歴史では、「戊辰戦争」のように、年を表すこともありますね。

文字の構造を探ってみましょう。「受」という文字を見てください。「受」は「采」（つめかんむり）や「手」の下向きの手」と「又」（また）の形です。三つの部分からできていて、二つの手があります。「采」を含む他の漢字を取り上げてみましょう。「採」という漢字があります。最初

の形は「采」であり、下向きの手で木の実を採るという意味でした。「采」に彩り・文様という意味が出てきたため、「採る」という意味に限定して使う場合は手偏をつけるようになります。したがって「採」（イメージしやすくするため、甲骨文字より後の時代の書き方も入られて文字を書いています。）という漢字には手が二つあります。学習をさらに広げてみましょう。

「違」の漢字の字源を調べ、「正」「歩」「降」も調べてみて下さい。こちらは、「足」に関する漢字グループです。他に、「年」は、人が稲穂を担ぐ姿になっていますね。甲骨文字の形を見ると、漢字の持つもとの意味がわかります。

中国で甲骨文字が発見されたのはまだ新しく、一九〇三年です。日本の明治三六年にあたります。国立大学の学長の地位にあった王懿榮が、マラリアの特効薬として古物商に出回っていた「龍骨」の図象が文字ではないかと気づき、友人の文字学者である劉鶚と、文字の収集・整理をしました。甲骨文字が発見されたことによって、司馬遷の『史記』に描かれていた殷王朝が実在した王朝であることが、考古学的に証明されました。甲骨文字で綴られた文は、殷王朝の政治のしくみや文化を今日に伝えてくれます。